

国際化学肥料ニュース（2025年4月）

肥料業界の2025年4月動態

- * 4月第1週（3月31日～4月6日）の尿素国際相場は5週間ぶりに上昇に転じた。3月26日にインドIPL社が新しい尿素国際入札が発表してから主要輸出国のFOB価格と主要輸入国のCFR価格が7～25ドル／トン上がった。
4月3日エジプトMopco社はFOB370ドル／トンで6000トン大粒尿素を販売し、メキシコのFertinal社はCFR380ドル／トンで2船の大粒尿素を契約した。北アフリカ産大粒尿素のCFRヨーロッパ価格が360～370ドル／トンに上がり、CFRブラジル価格も355ドル／トンから360～365ドル／トンに回復した。アメリカのFOB Nola価格も370ドル／トンに上がった。
- * アメリカのトランプ大統領は国内鉱物とレアアース生産能力を高めるためにアメリカ「国防生産法（Defense Production Act of 1950）」を活用する大統領令にサインした。Michigan Potash社はこの大統領令を元に連邦政府に10億ドルの有償資金を申請し、ミシガン州に年間生産能力塩化加里80万トンの新しい加里鉱山と精製工場を建設する。アメリカの新しい加里鉱山の開発は30年ぶりのことである。
- * 4月8日インドIPL社が尿素国際入札結果を公表した。23社が応札して、西海岸の応札量187.2万トン、最低応札価格はLiven社のCFR385ドル／トン、東海岸の応札量168万トン、最低応札価格はIndagroのCFR398.2ドル／トン。応札量の中にロシア産尿素とナイジェリア産大粒尿素も含まれている。前回1月23日に締め切りと開札のインドRCF社の尿素国際入札に比べて、西海岸の最低応札価格が37ドル、東海岸の最低応札価格が28.8ドル安くなった。今回の尿素国際入札は3月26日発表、4月8日締切りと開札、6月12日船積みという条件である。
インドIPL社はそれぞれの最低応札を元に西海岸応札の10社と東海岸応札の8社と最終交渉に入っている。ただし、噂によれば、今回の入札は東海岸の価格が魅力的で、70万トンの枠を満たすことに問題なさそうだが、西海岸は最低応札したLiven社を除き、ほかの応札者は応じず、80万トンの枠を埋めることができない可能性が高い。
- * インド政府は2025年4月～9月のりん酸肥料と加里肥料の政府補助金を決定した。補助金予算3721.6億ルビー（約43.5億ドル）、昨年度より1280億ルビー増加する。各肥料のトン当たりの補助金はDAP27799ルビー、塩化加里1428ルビー、化成肥料の

種類により 13585～19495 ルピーで、りん酸成分が高いほど補助金が上がる。塩化加里を除き、ほかの肥料種類の補助金が昨年より 20～30% 増加する。

- * インド IPL 社の尿素国際入札はすでに主に東海岸向けに 81.8 万トンを契約した。さらに上積みを狙って交渉が続いている。
- * 4 月 18 日の最新情報ではインド IPL 社が 88.5 万トン尿素を購入することである。
- * 中国税関の速報によれば、2025 年 3 月の中国化学肥料輸出量 248 万トン、その内訳は尿素 0.18 万トン、硫安 149 万トン、DAP1.17 万トン、MAP0.1 万トン。国内春シーズンの肥料安定供給のため、尿素とりん安の輸出が厳しく規制されている。2025 年第 1 四半期（1～3 月）の中国化学肥料輸出量が 44.5% 増の 716 万トンだが、各品目では尿素輸出量が 74.1% 減の 0.66 万トンしかなく、DAP 輸出量も 45.2% 減の 7.76 万トン、MAP 輸出量も 66.4% 減の 3.35 万トン、硫安だけが 31.1% 増の 406 万トンである。
2025 年 3 月の中国化学肥料輸入量 133 万トン、その内訳は塩化加里 124 万トン、NPK 化成肥料 5 万トン。2025 年第 1 四半期（1～3 月）の化学肥料輸入量が 8.0% 減の 383 万トン、各品目では塩化加里輸入量が 7.6% 減の 355 万トン、NPK 化成肥料輸入量が 21.3% 減の 22 万トンである。
- * 4 月第 3 週（14～20 日）の尿素国際相場は小幅の上昇が続いている状態である。東半球ではインド IPL 社の尿素国際入札が最終的に 88.5 万トンを購入し、大部分が東海岸向けの貨物である影響を受け、価格が上昇した。中東産尿素がオーストラリア向けに FOB 価格 395 ドル／トンで 3 万トンを販売し、インドネシア産尿素も FOB390～400 ドル／トンで売り出した。イラン尿素も FOB360 ドル／トンを要求している。ブルネイが尿素販売入札を発表し、その応札価格に注目している。
西半球ではエジプト産大粒尿素の FOB 価格が 375～390 ドル／トンで 5 ドルほど上がった。CFR ブラジル価格が 370～380 ドル／トンで安定しているが、アメリカの FOB Nola 価格が 398～422 ドル／トンに大幅上がった。
- * 中国窒素肥料工業協会の最新データによれば、2024 年末現在中国のアンモニア生産能力が 4.0% 増の 7712 万トン、尿素生産能力が 2.9% 増の 6919 万トン、2024 年のアンモニア生産量が 8.1% 増の 7307.7 万トン、尿素生産量が 6.9% 増の 6723.7 万トン。2025 年には新規プラントの稼働により、アンモニア生産能力（旧生産能力の更新を含む）が 427 万トン、尿素生産能力（旧生産能力の更新を含む）が 660 万トン増加し、2025 年

末に尿素生産能力が 7500 万トンを超える見込みである。なお、2025 年第 1 四半期（1 ～3 月）の尿素実生産量が 5.4% 増の 1751 万トンである。

- * ブラジル税関の最新データによれば、2025 年第 1 四半期（1～3 月）の塩化加里輸入量が 6% 増の 260 万トン、輸入元はロシア 150 万トン、カナダ 77 万トン、イスラエル 22 万トン、ドイツ 9 万トンである。2024 年ブラジルの塩化加里輸入量が史上最多の 1400 万トンであるが、その勢いが 2025 年にも続いている。
- * 4 月第 4 週（21～27 日）の尿素国際相場は引き続き小幅に上昇している。東半球ではインド IPL 社の尿素国際入札の影響がまだ残って、インドネシア産大粒尿素の FOB 価格が 405～410 ドル／トン、ブルネイの尿素販売入札では FOB405 ドル／トンの応札がある。中東産尿素が FOB395～400 ドル／トンに上昇し、7 週ぶりに 400 ドル／トンに回復した。
西半球では、アメリカ尿素の FOB Nola 価格が第 3 週の 398～422 ドルから 410～480 ドル／トンで大幅に上昇した。ブラジルの CFR 価格が 5 ドル上昇し、375～390 ドル／トンとなった。メキシコ Tepayac 社が大粒尿素を求めていたが、成約に至っていない。CFR アルゼンチン価格が 405～410 ドルに上昇した。北アフリカのエジプトとアルジェリア産大粒尿素の FOB 価格がともに 395 ドル／トンを突破した。エチオピアの EABC 社が尿素国際入札で 60 万トン超の尿素を購入した。
- * 中国りん酸と化成肥料工業協会の発表によれば、2024 年中国のリン酸肥料生産能力が 2200 万トン（P2O5 換算、以下同）に達し、実生産量が 1390 万トン、史上最高の 2015 年に次ぐ 2 番目の生産量である。所属のメーカーはりん酸肥料のほか、リチウム電池に使うりん酸鉄リチウムの生産にも力を入れて、2024 年末現在、精製りん酸生産能力が約 500 万トン、リン酸鉄リチウム生産能力 380 万トンを有する。また、2024 年りん酸肥料業界の総売上高が 4.5% 増の 4425 億人民元（約 614.6 億ドル）、純利益が 28.5% 増の 294.1 億人民元（約 40.8 億ドル）である。
- * 3 月 26 日発表されたインド IPL 社の尿素国際入札は最終購入数量が判明された。東海岸向けに CFR398.24 ドル／トンで 68.17 万トン、西海岸向けに CFR385 ドル／トンで 20.3 万トン、計 88.37 万トンを契約した。今回の入札は東海岸向けに 70 万トン、西海岸向けに 80 万トンの計 150 万トンの購入を計画していたが、実際の成約量が半分強しかない。4 月中旬現在、インド国内尿素在庫量が約 700 万トン、昨年同期の 880 万トンより 180 万トンも少ない。5 月に再び尿素国際入札を行う噂がある。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * カナダの Replenish Nutrients 社はアルバータ州 Beiseker に化成肥料工場を建設するプロジェクトが順調に進み、2025 年下半期にフル稼働になると発表した。Beiseker 肥料工場は年間 2.5 万トン化成肥料を生産する能力がある。
- * 南米パラグアイの ATOME PLC 社は Villeta 市に世界初のグリーン肥料工場を建設し、完全再生可能エネルギーを使用して大規模なゼロカーボン肥料を生産することを発表した。当該工場は水力発電の電力を 100% 使用して、年間 26 万トンのゼロカーボン肥料を生産し、南米南部共同市場（メルコスール）の農業と食品の脱炭素化を推進する。総投資額 6 億 2,500 万ドル、2028 年完成する予定である。EPC（エンジニアリング、調達、建設）はイスイスの Casale 社が担当する。
- * アメリカの CF Industries 社は日本の JERA および三井物産株式会社と低炭素アンモニアの建設、製造、引取を行う合弁会社（JV）を設立したと発表した。計画ではアメリカルイジアナ州 Ascension 郡にある CF Industries 社の Blue Point Complex に年間生産能力 140 万トンアンモニア工場を建設し、アンモニア合成時に発生した二酸化炭素の 95% 以上を回収して、年間約 230 万トン二酸化炭素をルイジアナ州にある Pelican Sequestration Hub の Class VI 井に永久貯留するものである。総投資額約 40 億ドル、2026 年着工、2029 年完成し稼働する予定である。フランスの Technip Energies 社は低炭素アンモニア製造施設に必要な機器およびモジュールの設計・製造を行う。
- * カナダの Genesis Fertilizers 社はサスカチュワン州ベルプレーン地域に低炭素窒素肥料工場を建設することを決めた。工場の生産能力は 1500 トン／日のブルーアンモニアと 2500 トン／日の尿素、総投資額 20 億ドル、2029 年完成・稼働する予定である。アンモニア生産設備はドイツの thyssenkrupp Uhde 社、尿素生産設備はオランダの Stamicarbon 社に発注する。
- * 中国の川金諾社はエジプトにりん酸肥料工場を建設する計画を発表した。りん酸肥料工場は 80 万トン硫黄硫酸プラント、30 万トン粗りん酸プラント、15 万トン 52% 精製りん酸プラント、30 万トン MAP プラントと 2 万トンヘキサフルオロケイ酸ナトリウムプラントから構成され、総投資額 2.7 億ドル、2028～2029 年完成し、稼働するという。

* 4月20日、中国のリン酸肥料メーカー湖北洋豐社の子会社雷波新洋豐鉱業社は中国四川省雷波県に巴姑りん鉱山プロジェクトの建設着工式を行った。巴姑りん鉱山プロジェクトは2.5億人民元（約3470万ドル）を投資して、年間100万トンりん鉱石の採掘と選鉱能力を有し、2026年第2四半期に稼働し始まる計画である。

その他

- * ドイツのthyssenkrupp Uhde社はブルネイ肥料産業SDNとの間に5年間BFIプラントのアンモニアおよび尿素生産に関する総合サービス契約を締結したと発表した。ブルネイ肥料産業SDNはブルネイの国営企業で、所有のBFIプラントはthyssenkrupp Uhde社によって建設された総合肥料コンプレックスであり、2,200トン/日のアンモニアプラント、3,900トン/日の尿素プラントおよび尿素造粒プラントで構成されて、製品はほとんど輸出に供する。
- * 日本のつばめBHB社はブラジルのATVOS AGROINDUSTRIAL PARTICIPAÇÕES SA社との間にブラジル・ミネイロスにおける小規模分散型アンモニア合成プラントに関する基本合意書（LOI）を締結しました。プラントの生産能力は2万トン、水分解で得た水素を原料にアンモニアを合成し、窒素肥料を生産する。
- * 3月31日、中国政府の知的財産権などを管理する国家知的財産権利局は化成肥料のタワー溶融造粒法特許に無効審決を下した。この起因は中国深セン市にある特許ブローカーの「全維知的財産権運営公司」は2019年に同じ深センに本社のある肥料メーカー「芭田股份」から化成肥料のタワー溶融造粒法特許を4830万人民元で購入した後、中国大手肥料メーカー22社に高額の特許使用料を要求し、応じない場合は溶融造粒タワーの撤去を要求してきた。中国にすでに約400基の溶融造粒タワーがあり、生産能力が国内化成肥料生産能力の約20%、実生産量が15%以上を占めている。
2022年から少なくとも13社が当該特許の無効裁判を請求してきた。中国国家知的財産権利局は調査と審査の結果、化成肥料のタワー溶融造粒法はすでにある周知の技術で、新規性がないことを理由に特許の無効審決を下した。
- * インドの国営企業Bharat Petroleum Corp. Ltd (BPCL)はシンガポールのSembcorp Industries社の完全子会社Sembcorp Green Hydrogen India Private Ltdとの間にインド全土で再生可能エネルギーとグリーン水素プロジェクトの合弁事業(JV)契約を締結した。この合弁事業は、再生可能エネルギープロジェクトとグリーン水素製造のほか、グリーンアンモニア製造・バンカリング、港湾運営における二酸化炭素排出削減、その他のグリーン燃料技術に関するプロジェクトも検討する。Sembcorp Green Hydrogen

India 社はインドに 6GW の再生可能エネルギー資産を保有し、大規模かつ低コストのグリーン水素生産を実現する上で有利な立場にある。

- * 4月 26 日、イラン南部 Shahid Rajaee 港が大爆発を起きた。Shahid Rajaee 港はイラン最大に非石油物質輸出輸入港で、全国約 55% の非石油製品と約 85% コンテナー貨物を取り扱っている。爆発により、死者 25 名、負傷者 800 名以上、税関ビルを始め、多くのコンテナーヤードが破壊された。爆発が起きた原因が不明で、一部では港にある輸出用のイラン製ミサイルが破壊され、爆発が起きたという噂がある。Shahid Rajaee 港の港湾機能が回復されるまで長い時間がかかり、イラン産尿素など肥料の輸出も止まる見通しである。
- * 5月 4 日、アジア開発銀行はアジア太平洋地域の食糧と栄養安全分野への支援資金を 260 億ドル増額し、2022~2030 年に食糧安全計画への提供資金量が 400 億ドルになると発表した。2022 年 9 月、アジア開発銀行は 2025 年までにアジア太平洋地域の農業分野に 140 億ドルの資金を提供することを発表し、2024 年末までにすでに 110 億ドルを提供済み、2025 年にさらに 33 億ドルの提供を承諾した。今回の追加資金提供は 2026 年から 2030 年までのものである。